

腎臟固定術ハ千八百八十一年獨逸ニテハーン Hahn 初メテ之ヲ行ヘリ。

會陰式攝護腺別出術ハ千八百八十四年ミシガン市ノコール Cole ニヨリテ行ハレ、高位截開攝護腺別出術ハ其後三年ニシテ英國リーズニ於ケルミック、ギル Mc Gill ニヨリテ行ハレタリ、英國ニテハフレイヤー Freyer 高位截開別出術ノ權威者ニシテ米國ニテハヤング Young ハ會陰式別出術ノ、ガルドナー Gardner ハ高位截開別出術ノ權威者ナリ、輸尿管移植術ハ千八百八十七年ワヰリッブ Vassihb ノ初メテ行フ所ナリ。

千八百二十二年ロンドンノスクドモア Sudmore ハ蛋白尿ノ患者ニハ尿素ノ少ナキヲ發見シ、ビギリア Viglia シモンソン Johnson (一八五二) ヨハン、フォーゲル Johann Fogel (一八五六) ローンスタイン Rohstein (一八六二) セナトール Senator (一八九六) 諸氏之ヲ證明シタリ、又千八百二十三年ニハアリソン氏 Alison ガ腎臟疾患ニハ蛋白尿ト水腫アルコトヲ報告セシモリチャー、ド、ブライト氏 Richard Bright (一七八九—一八五八) ニ至リテ其詳細ナル研究ヲ遂グルヲ得タリ。淋疾、微毒、下疳ニ就テハジョン、ハンター氏 John Hunter ニヨリテ千七百六十七年、三病一毒説唱ヘラレシモ千八百二十一年リコール Ricord ニヨリテ二原説トナリ、千八百五十二年ニ至リテロルレー Rollet 下疳ヲ微毒ヨリ區別シ、更ニ千八百六十一年ニ混合下疳ノ存在スルヲ説ケリ。泌尿器科ニ於テ微生物ガ醱酵、腐敗及疾病ノ原因トナルコトハルイス、バスツールニヨリ千八百五

十九年年自然發生 (La Generation spontanée) ナル著述中ニ公ニセラレ、尿ハミクロコックス、ウレミ Micrococcus urae ニヨリテ分解ヲ起シテアムモニヤト他ノ產物トニ分レ且不潔ナル器械ノ挿入ニヨリテ起ルコトヲ知レリ、又淋菌ハ千八百十九年ナイセル Neisser ニヨリテ、結核菌ハ千八百八十二年ローベルト、コッホ Robert Koch ニヨリテ、葡萄狀球菌ハ千八百八十四年ローゼンバハ Rosenbach ニヨリテ、大腸菌ハ千八百八十五年エッシェリッヒ Escherich ニヨリテ、下疳菌ハ千八百八十九年、デクレュー Ducrey ニヨリテ、微毒ノ原因ナルスピロヘーテ、バリーダハ千九百五年、シャウデン、ホフマン Shaudin u. Hofmann ニヨリテ發見セラレタリ。

斯クシテ膀胱ニ感染ヲ來スベキ病原菌ハ又腎臟ノ化膿ヲ來ス可キモノナルコトヲ知り、結核、結石、化膿等ハ腎臟、膀胱ヲ同様ニ侵シ、腎臟疾患ノ原因ハ又輸尿管ヲ通リテ膀胱ニ達シ得可キコトヲ知ルニ至レリ。

千八百九十五年ニハコンラード、レントゲン Conrad Röntgen ガレントゲン線ヲ發見シテ結石ノ診斷ニ大ナル補助ヲ與ヘシガ、千八百九十七年ニハツッベル Tupper ガ婦人ニ不透過性ノ輸尿管カテーターヲ挿入シテレントゲン寫眞ヲ撮影スルコトヲ初メ、シムメット Schmidt 及 コリッシエル Kolischer ハ千九百一年ニ於テ金屬線ヲ輸尿管カテーター内ニ挿入シテ輸尿管ノ徑路及腎盂ノ位置ヲ撮影セリ、同年レヅェンハルト Leberhart モ亦同様ナル方法ヲ公ニシ、千九百五年ニハフュンウィック Fenwick

が金屬ヲ充填セル輸尿管消息子ヲ挿入シテ撮影セリ、千九百六年ニ至リテフルヘル Voelcker 及
 ビリヒテンベルヒ Lichtenberg ハ輸尿管カテーテルニヨリテ二%コラルゴールヲ腎盂内ニ注入シテ
 輸尿管及腎盂ノ形ヲ撮影シ、千九百九年クイエス Kaysers ハ四〇%乃至五〇%ノアルギロールヲ、千
 九百十年ウーレ Dole 及プラーラー Phalar ハ鹽化銀又ハ沃度銀ヲ、千九百十二年、ドレーライン
 Doderlein 及クローヒル Krong 八十五乃至一〇%キセロホルム、オリブ油ヲ用ヒテ、腎盂及輸
 尿管ノレントゲン寫眞ヲ撮影セリ、千九百十五年ニハ始メテブラーシユ Brand (米)ニヨリテ腎
 盂レントゲン撮影法ノ著述公ニセラレタリ。

腎臟機能ノ検査法ハ腎臟疾患ノ診斷及豫後ノ上ニ重大ナル意義ヲ有シテ多數ノ外科醫及泌尿器科
 醫ニヨリテ研究セラレシガ、千八百九十七年ブタベストノコラニオ氏 Koranyi ハ尿ノ結氷點測定
 法ヲ案出シテ腎臟ノ機能ヲ測定シ、次デ佛蘭學派ナルアシャル Achar ハメチレン青ヲ皮下ニ注
 射シテ其色素ノ尿中ニ發現スルノ遲速ニヨリテ之ヲ定メ、次デ千九百年獨乙學派ナルカスパー及リ
 ヒテル Richter ハフロリヂンヲ皮下ニ注射シテ人工的ニ糖尿ヲ起シ機能検査ヲ行ヒタリ、又フル
 ケル Voelker 及エセフ Joseph ハイインヂゴカルミンヲ腎筋内ニ注射シテ其色素ノ出ヅル遲速ニヨリ
 テ診斷シ、千九百十年米國ニテラウンツリー Rowntree 及セラチー Garschky ハフエノール、ズルホ、
 フタラインヲ注射シテ機能診斷ヲ行ヒタリ。

千九百八年ツアイネック及バルンド Zeynek u. Bernd ガベルリンニ、千九百七年ナーゲルシュミット
 氏 Nagelschmidt ガウイーニニ於テデアテルミト装置ヲ完成セシヨリ翌千九百十年紐育ノエドウイ
 ン、ジュール Edwin Beer 出デ、良性膀胱腫瘍ノ電氣凝固療法ヲ創始シ最モ簡單ニ膀胱ノ良性腫瘍ヲ
 治療シ得ルニ到レリ。

日本泌尿器科史 Inländischer Teil

●●●●● 上古史 日本ニ於ケル醫術ハ大古ハ漢トシテ知ルニ由ナキモ、上古ニハ崇神天皇(西歷紀元前百
 九十年頃)以後三韓任那トノ交通開ケテヨリ、漢唐醫術傳來シ、奈良朝時代、平安朝時代ニアリテ
 ハ病源候論(西歷六百五年頃隋ノ巢原方ノ著)傷寒論(西歷一九六乃至二二〇年頃ノ人、漢ノ張仲
 景ノ著)千金方(西歷五八九乃至六五〇年頃ノ人、唐ノ孫思邈ノ著)等ノ醫書行ハレテ金科玉條ト
 ナサレ、疾病ノ原因ヲ外ニ求メ鍼、灸、藥ノ三方ヲ以テ治療シ、佛敎ノ盛ナルニ至リテハ醫療服藥
 ヨリモ神佛ノ加持、祈禱專ラ行ハレ、保元、平治(西歷一一五六年頃)ノ頃ニ至レバ醫術殊ニ進歩
 ノ跡ヲ認メズ。

●●●●● 中古時代 中古ニ至リテ鎌倉時代(西歷一一八六年以後)ニハ宋ノ醫說入リテ疾病ノ發生ヲ五運
 六氣ニ歸シ、其補瀉ヲ求ムルヲ主トシ、療法トシテ灸點、針刺、火針、湯浴、食養ヲ用ヒタリ、已

ニシテ南北朝時代(西曆一三三四年後)ニハ僧侶治療術ヲ兼ホテ醫學衰頹ノ時代トス、室町時代ニハ明ノ醫術文物傳來シ永正九年(西曆一五二二年)既ニ微毒ヲ輸入シタリ、後奈良天皇弘治二年(西曆一五五六年)ニハ豊後ノ國主大友宗郡、癩病院、施療院ヲ建テ葡萄牙人ヲシテ治療セシム、是レ西洋醫術傳來ノ始メナリ、安土、桃山時代ニ及ビテモ治療ハ別ニ新シキヲ加ヘズ、金創醫ハ助産ヲ兼ネ外科ニ鷹取流ト南蠻流トアレドモ概ネ大同小異ナリキ、當時南蠻流外科ニハ創傷ニ燒酒ヲ用ヒテ消毒セルガ如シ。

近世史 德川氏ノ初(第十七世紀)ニハ漢方ニハ宋醫學ノ外ニ古方醫學起リタレドモ外科ハ振ハズ、膏藥ヲ主トスル外、灸、烙、鍼ノ外ニ出デズ、是ヨリ先天正ノ頃、葡萄牙人及西班牙人ノ渡來禁ゼラレ、和蘭人西曆一五八三年ノ頃ヨリ渡來スルニ及ビテ、名醫隨從シ來リテ長崎ニ滞在セシカバ、笈ヲ負フテ長崎ニ至ル者多ク繙帶、カテーテル(龜甲製、鐵製、銀製)トロイカル、スポイト、手術器械等輸入セラル、然レドモ其術熔鐵、打膿、膏藥ニ過ギズ、是レ皆蘭書ヲ讀ムニアラズシテ蘭醫ノ手術ヲ見聞シテ模倣セルニ止マレバナリ、唯此間西曆千六百七十八年ノ頃灸ハモグサト稱シテ歐洲ニ傳ハリ弘ク行ハレタリ。

德川氏ノ中世(第十八世紀)ニ及ビテハ漢方醫ニハ一氣留滯論、萬病一毒論、氣血水論等ノ學說出デ、治療ノ原則トシテ吐、汗、下ノ三方ヲ用ヒシモ、外科ハ舊ニ依リ進歩ノ跡ナシ、唯産科ニ賀川子支氏出デ、獨創ノ手術ヲ行ヒタリ、和蘭流外科ニアリテハ吉宗ノ時代ニ及ビテ蘭書ヲ讀ムコトヲ許可シタルヲ以テ、手術ノ方法爲メニ面目ヲ一新シ蘭書ノ翻譯モ亦出ヅルニ至レリ。

德川氏ノ末期(第十九世紀前半)ニ及ビ漢醫方ノ外科ニハ外傷ノ縫合、膿瘍ノ切開等ニ過ギザリシガ享和、文化、嘉永ノ頃紀州ノ人華岡隨賢出デ、面目ヲ一新シ、一種ノ麻醉藥(西洋ニ於テクロ、ホルム麻酔ハ天保十一年(一八四〇)ニ、エーテル麻酔ハ弘化四年(一八四七)ニ始マル)ヲ發明シテ各種ノ外科手術ト共ニ石淋、便毒、癩疔(陰囊水腫)ニ對シテ豪膽、靈妙ノ技ヲ施シタリ、其醫生ニ水戸ノ人本間玄調アリ、天保八年(西曆一八三七年)淋疾ヲ微毒ヨリ區別シ、安政五年(西曆一八五八年)初メテ會陰部截石術ヲ以テ膀胱結石ヲ摘出セリ、此頃整骨術モ亦一ノ專門トナレリ、西洋醫方ノ外科ニハ獨逸ノハイステルノ外科書翻譯セラレ手術ノ大本ヲ得ルニ至リ、當時電氣療法モ亦行ハレタリ、文政六年蘭ノシーボルト長崎ニ來リテ實地臨床ノ指導ヲ行フニ及ビテ教ヲ請フモノ四方ヨリ集マリ外科ノ發達著シカリキ、嘉永元年(西曆一八四八年)始メテ痘苗、聽診器(西曆一八一六年レンネック聽診法ヲ初ム)渡來セリ。

明治史 王政維新ト共ニ和蘭醫學ハ英國式ト變ハリ、明治二年大學ヲ置キ、明治四年(西曆一八七一年)ヨリ更ニ獨逸式ヲ採用セリ、明治八年シユルツ初メテリスターノ防腐法ヲ講ジ、明治十二年學位令ヲ發布シ、有爲ノ士相次デ留學シ醫學ノ發達驚歎ニ値セリ、明治廿一年(西曆一八八八年)初メ

テ醫學博士ノ學位ヲ與ヘ、同年スクリッパ氏腎臟挫傷ニ初メテ腎臟剝出術(西曆一八六九年ジモン氏腎剝出術ヲ行フ)ヲ行ヒ、翌年猪子吉之助氏腎臟肉腫ニ、越エテ廿五年佐藤三吉、井上平造、丸茂文良諸氏ハ各腎臟破裂、腎臟結石等ニ腎臟剝出術ヲ行ヒタリ、明治廿八年笹川三男三氏ハ歸朝開業シテ淋疾療法ニ一新期限ヲ畫シ、明治卅年朝倉文三氏歸朝シテ此科專門ノ開業ヲナシ、卅一年土肥慶藏氏歸朝大學教授トナリテ皮膚病微毒學教室内ニ泌尿器科室ヲ設ケテ其發展ヲ圖リ、三十二年池原廉造、和辻春次、黒岩福三郎、長谷川一詮、諸氏ハ腎臟結核ノ二次的手術ヲ報告セリ、同年岡村龍彦氏歸朝開業シ、三十四年ニハ皮膚病學會興リテ皮膚科泌尿器科雜誌初メテ刊行セラル、三十六年阿久津三郎氏歸朝シテ泌尿器科專門ノ開業ヲナシ此科ノ隆盛ヲ致セリ、明治四十五年日本泌尿器病學會起リ同年土肥慶藏氏初メテ膀胱腫瘍ニラヂウム療法ヲ行ヒ大正五年(西曆一九一六年)著者ハ本邦ニ於テ初メテ膀胱乳嘴腫ノ膀胱内電氣凝固療法ヲ行ヘリ、大正五年、川喜多氏フアラ、デアテルミーク造リ、大正八年武井氏坂口勇氏指導ノモトニ検査用膀胱鏡ヲ、次デ輸尿管膀胱鏡、寫真用膀胱鏡、ゴールドシュミット氏尿道鏡ヲ完成セリ、大正九年十一月著者ノ外中川、村松兩氏ハ本邦ニ於テ初メテ腎盂、輸尿管内ニソリウム液ヲ注入シテ腎盂、輸尿管ノレントゲン撮影術ヲ成效セリ。

泌尿器科史(終)

大正十一年十二月二十日印刷納本
大正十二年一月一日發行

正價
金四圓八拾錢

著者 北川正
東京市本郷區森川町壹番地

發行人 藤實融
東京市本郷區森川町壹番地

印刷人 久松鐵次郎
東京市本郷區眞砂町三十六番地



發行所

東京市本郷區森川町壹番地

近世醫學社出版部

大賣捌所

東京本郷

南江堂、南山堂、吐鳳堂、文光堂、克誠堂、文榮堂、
金原書店、明文館、富倉、根津各書店、

慶應醫科大學教授 醫學博士 高野六郎先生著

實用微生物學

四六版ポイント
三百八十頁
本綴金文字入
正價 金參圓五錢
送料 金拾錢

抑々微生物の如き實地應用の廣汎なる學問に於ては學生の教科書研究者の參考書たる以外一般醫人の共に參考書たるべき所謂實用向きの著書の必用なるや贅言を要せず、然るに世上微生物著書は或は専門的或は備忘録的にして未だ之等の要求に適せるものなきは遺憾とする處なり、著者茲に見るところありその日常の蘊蓄を傾注し本書始めて成れり、而も敢て實用の二字を冠す蓋し外觀内容共に從來の陳舊を脱し一事一項の末に至るまで實際的ならざるなく叙述懇切、繁簡宜に適し徹頭徹尾實用を主眼目的とせる最新微生物學なればなり、即ち學生の實習、受験の參考書又は一般醫家の同伴として輕便にして日常一般の作業或は診療上遺漏なきものとする。

發行所

東京市本郷區森川町壹番地
振替東京二七五三七番

近世醫學社出版部

臨牀診斷檢査法辭書

醫學士 岡本武美先生 共編
醫學士 國分信雄先生

臨牀診斷檢査法

全一冊
四六版ポイント活字
四百數十頁挿畫標本
圖、精密着色版本綴
正價 金參圓八拾錢
送料 十二錢

●上卷

喀痰、漿膜穿刺液、糞便、血液、腦脊液、
唾液(下卷)、尿、胃内容、乳汁等挿刊)

本書は病的材料たる喀痰、漿膜穿刺液、糞便、血液、腦脊髄液等に對し顯微鏡的、細菌學的、物理化學的、光學的、血清學的等各般の檢査法を實用的に詳述せる備忘録的檢査法辭書なり、故に本書は檢査法に關して一切を網羅せるを以て、本書を參考とせば從來の如く一檢査に際し細菌學書、醫化學書臨牀診斷書其他の浩辭なる成書を檢索する等煩雜なる手数を要せざらべし、而も精細なる索引及精密なる挿畫標本等を附せるを以て引用至便實地家に於て無二の指針といふべし、御愛顧を希ふ。

發行所

東京市本郷區森川町一丁目
振替東京二七五三七番

近世醫學社出版部

慶應義塾大學
醫學部教授

醫學博士 唐澤光德先生閱
醫學博士 田中一郎先生著

小兒科

四六版ポイント活字
四百頁 本優美裝
正價 金壹圓五拾錢
送料 金拾貳錢

本書第三版 現時進歩せる小兒科學の一般を記述し日常兒科診療に際し
些の遺憾無きことを期せり、凡そ小兒に於ける疾患は屢々突發的にして諸症併發
すること多し而も之を各別に専門家の診療に委ぬるを許さざるあり、故に兒科臨
床家は他科、疾患をも悉知するを要するは各位の經驗せらるゝ處なり、之を以て
本書は單に內科的疾患のみを叙述するに止めず外科其他各科疾患をも詳述したり
之れ本書の特色とす、之を要するに以上の内容を記するに當り一書を通じて新藥
の處方に際する注意を促かし又牛乳代用品其他注射藥の注射方法、食餌療法中特
にカルシウム、磷、ウイタミン等は隨所に其の要領を擧げ採長捨短其適宜を示す
等、徹頭徹尾臨床家の指針たるのみならず攻究者の好侶伴たり。

東京市本郷區森川町壹番地
振替東京二七五三七番

近世醫學社出版部

醫學博士佐々廉平先生著〔增訂三版〕

食餌療法

(部學品食)

四六版二百數十頁
印刷鮮明
金文字入本綴
正價 金貳圓參拾錢
送料 金六錢

緒言—食品學總論—病人榮養と健康者榮養と共通する著眼點四あり(一)食品
品の價格、病人榮養に於てのみ注意を要する事項、(二)食品の香味價(三)食物の理學的性狀(四)食
食品の分類動物性食品と植物性食品との特異點—食品學各論—動物性食
品—(一)肉類病人食餌としての肉及其製品(二)牛乳、牛乳よ—植物性食品—
り作る種々の製品、病人食餌としての牛乳及其品(三)卵—(一)禾穀類病人食餌としての豆類(三)根菜
(二)禾穀類病人食餌としての五穀類、(二)豆菽類、病人食餌としての野菜(五)果實類、水菓、病人
類(四)葉莖菜類、菌類、海藻類、瓜類、病人食餌としての野菜(五)果實類、水菓、病人
食餌としての果實、乾果(六)香—嗜好品及清凉劑—(一)水及淡性飲料(二)ア
辛類、甘味物(七)脂肪及油類—嗜好品及清凉劑—(一)水及淡性飲料(二)ア
生理的作用、病用としての酒精性飲料(三)アルコール含有飲料及嗜好品、精酒の
人飲料としてのアルコール含有嗜好品、食品嗜好品の榮養素、價表及其說明

發行所

東京市本郷區森川町壹番地
振替東京二七五三七番

近世醫學社出版部

東京帝國大學助教授 醫學博士 坂口康藏先生著

糖尿病講話

全一冊
四六版百餘頁
正價金八拾錢
送料六錢

臨牀各家各位

此書は主として糖尿病の治療法に就て述べてあります。糖尿病の治療を正當に行ふには多少豫備智識が必要であります。糖尿病は他の治療法と異り簡單に拘子定規的の治療は最も嫌ふ所であつて是非各患者につき又其の症狀の變化につき一々其の治療法を考へて見ねばならぬ。以前には糖尿病は直ちに含水炭素を禁じ肉食を命する等極めて簡單に亂暴な治療法もあつたが今日ではそんな醫師はあるまい、その代り治療法は非常に困難なものになつたが、然し實際の所一步立入つて見れば一定の治療方式があつて之を理解すれば何でもなく、此の根本的方針を御話するのが本書の目的である。現今の糖尿病治療法を知るには本書は最良の参考書であります。

發行所

東京市本郷區森川町一番地
振替東京二七五三七番

近世醫學社出版部

專門博士數十氏共述

區馬 療法標準

全一冊
菊版百數十頁
正價金六拾錢
送料六錢

臨牀家必携

驅微療法、結核熱の處置共に臨牀家の困難とせらるゝ問題なり、之に關して各醫科大學及民間各方面の博士、専門大家數十名諸先生の經驗を結集せしもの、蓋し本編を通じて兩題に對する本邦現時の治療法の趨勢を知るを得べし、本文は曩に近世醫學誌上半歳の久しきに亘りて報道したる記事を別冊に附して實費にて提供せるものなり。

結核熱處置

全一冊
菊版八十頁
印刷鮮明
正價金四拾錢
送料六錢

近世醫學社出版部

東京市本郷區森川町一番地
振替東京二七五三七番

東京帝國
大學教授

醫學博士 田代義德先生序
醫學士 松本喜代美先生著

臨牀小外科

四六版ポイント式活字
五百頁本綴美裝
正價金參圓五拾錢
送料 十二錢

改訂第五版

本書は一般臨床家に悉知せられ歓迎を博したる著者別著「小手術」の姉妹篇なり、單に外科疾患のみならず外科的治療を要する疾患は何れの科に屬するものをも悉く之を記述す即ち外科、婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚花柳病科、小兒科、眼科其他をも網羅せり、而も實地家の同伴たるを期せるを以て大外科の如きは其要領を記するに止め實地家に必要なる疾患は之を漏すことなく懇述せり、故に外科専門科及其他専門外の臨床家が「小手術」を參考とせらるゝ如く本書も亦各位の好參考たることを確信す、本書は各専門醫學校、醫科大學の教科書若くは參考書に指定せらる、

東京市本郷區森川町壹番地
振替東京二七五三七番

近世醫學社出版部

東京帝國
大學教授

醫學博士 田代義德先生序
醫學士 松本喜代美先生著

第十版

小手術

ポイント活字印刷鮮明
挿畫多數本綴美裝
正價金貳圓參拾錢
送料 八錢

現今世上に行はるゝ外科教科書手術書は單に術式の梗概を明かにするか或は詳細に亘るといへども専ら其意を大手術に注ぎ實地醫家に極めて緊要なる小手術を閉却せるの短所直ちに刀を執りて治療に臨む能はざるの不便あるは甚しく非實用的の觀あり、即ち一讀すに著書は茲に觀る所あり、實地醫家の日常遭遇する外科的疾患中必ずざるも専門醫家を煩はすの要なき程度のもを各科に亘りて一巻の裡に總括網羅し、治療式を詳説し以て業務多端にして悠々書齋裡に成書檢索の餘暇なき開業醫家の參考に供せんとし、此著あり、宜なる哉、本書初刊以來出版界の空前の好評を博し、既に増訂重版十數回に及び、専門家と否とを問はず案頭一本を備へざるなきに至らんことを希く購求あらんことを。

東京市本郷區森川町壹番地
振替東京二七五三七番

近世醫學社出版部

東京帝國
大學教授
東京帝國
大學助教授

醫學博士 磐瀨雄一先生序
醫學博士 白木正博先生著

臨牀產科治療法

四六版ポイント式活字
四百頁本優美本
正價金貳圓八十錢
送料金拾貳錢

増訂第六版

本書は一般實地的應用に資せんとするを以て臨牀上比較的必要ならざる疾
患の檢索及高遠なる學理の如き或は稀有の疾患の如き之を省略し専門的大
手術の如きは單に其の要領を記述するに止むといへども其の診斷及類症鑑
別にして實地的なるものは詳述す、而て頻發し實地的なる産科的操作就中
療法實施の方法、處置は無數の挿畫諸表と共に順序次第を追ふて適切に説
述して餘す處なし、而も化學生物學的、血清學的、細菌學的診斷及療法に
して苟も産科領域に關する新説實驗をも敘述し現時の趨勢を明にせり、故
に初版以來専門家及一般實地家學生、産婆諸氏の歡迎を博せるものなり

東京市本郷區森川町壹番地
振替東京二七五三七番

近世醫學社出版部

57
60

終